

## 第 4 回 総合計画審議会（創造分科会） 議事要旨

日時 平成 22 年 4 月 8 日（木）午後 3 時 00 分～5 時 00 分

場所 横須賀市消防局庁舎 4 階災害対策本部室

出席委員 影山清四郎委員（座長）、澤田信子委員（副座長）、植竹喜三委員、遠藤千洋委員、大武勲委員、川名亘子委員、藤原尉夫委員、松本敬之介委員、森川菜摘委員、吉村彰展委員、渡辺昌昭委員（以上 11 名）

事務局 政策推進部 松谷部長

横須賀市都市政策研究所 福本政策担当課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 市民 1 名

議事内容

1. 報告事項
2. 審議事項
3. その他

< 開 会 >

（松谷部長）

- ・お忙しいところありがとうございます。この 4 月で組織改正があり、基本計画策定所管はこれまで企画調整部でしたが、名称が変わって政策推進部となりました。企画調整部長は廣川が副市長と兼務でしたが、この 4 月から私が総務部から異動となりました。計画づくりは初めての職場となりますが、よろしく願いいたします。
- ・総合計画審議会を設置して、これまでの基本計画素案に基づいて大枠の議論をして頂きました。毎回 50～100 件の貴重なご意見を頂いていると聞いており感謝申し上げます。それらのご意見を反映できるような計画を策定していきたいと思っております。
- ・議論をする中では、具体的な施策や事業が決まっておらず、しばらく議論をして頂いたのだろうと想像しています。年度も改まり、具体の政策レベルの書き込みも準備を進めておりますので、活発なご議論をお願いしたいと思っております。
- ・5 月からはより具体的な施策の審議に入ると聞いておりますので、これまでの議論が施策に反映されているのかということについてもチェックをして頂けると大変ありがたいと思っております。
- ・横須賀市の進むべき方向性を、今年度、是非市民の皆さんに説明していきたいと思っておりますので、引き続きご議論をよろしくお願い申し上げます。

（事務局）

- ・松谷は所用により退席させていただきます。

（影山座長）

- ・3 月末で東京福祉大学を退職し、現在は横浜国立大学の名誉教授という肩書きでこの会に参加させて頂くこととなりましたので、よろしく願いいたします。

## 1. 報告事項

(1) 第3回総合計画審議会（創造分科会）の議事要旨について  
（事務局）

－資料1説明

(2) 第3回総合計画審議会（創造分科会）意見について  
（事務局）

－資料2説明

(3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会（平成22年3月24日開催）について  
（事務局）

－資料3説明

（渡辺委員）

- ・資料3で「委員」とは特別委員会の委員を指すと思いますが、「理事者」とは何を指すもののでしょうか。
- ・どうして、発言者名を記載しないのでしょうか。総合計画審議会の意見一覧では委員名が記載されているのではないのでしょうか。

（事務局）

- ・「理事者」とは行政担当者であり、具体的には企画調整部長や政策担当課長を指します。
- ・総合計画審議会の結果を特別委員会の資料として提示するときには、委員名を提示していません。

（渡辺委員）

- ・それは、委員からの要望として出されたものではありません。発言した内容には責任をとるべきですので、双方に名前を伏せるという配慮は不要ではないでしょうか。
- ・どういう議員がどのような発言をしているかについては、一市民としては当然知って良い内容ではないでしょうか。

（影山座長）

- ・報告事項についてその他のご質問はありますか。

（松本委員）

- ・資料1で出席委員の名称について、「助」ではなく介護の「介」であるので修正してください。なお、原本を修正して頂ければ、再送付は不要です。

（影山座長）

- ・そうすると、渡辺委員のご指摘について議論したいと思います。
- ・前回頂いた資料では発言者名が記載されていました。

(事務局)

- ・第3回総合計画審議会（創造分科会）に提示したときには、特別委員会の発言者の氏名が記載されていました。総合計画審議会の内容は3月24日の特別委員会で初めて提示しておりますが、その時には総合計画審議会委員の氏名は記載しない資料としました。

(影山座長)

- ・記載するということについて確認をして頂き、そちらで問題なければ記載して頂いても良いと思いますが、特別委員会については、総合計画審議会で記載の有無を決定することは出来ないのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ご指摘の通り、特別委員会の意向によるものになります。
- ・なお、発言者について知りたいということであれば、議事録が公開されているほか、インターネットで録画映像を提供していますので、そちらでご確認頂くことが可能です。

(渡辺委員)

- ・委員だけではなく、理事者についても発言者が不明となっています。こうした状況では、発言内容が無責任なものになるのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・まったく公開されていないわけではなく、先ほどご説明しましたとおり、議事録やインターネットで提供している映像などでは、確認することが出来ます。

(渡辺委員)

- ・他の委員会では発言者名が掲載されています。市民としては、委員も理事者も発言者が明確になってしかるべき書類であるように思います。
- ・記載すべきかどうかについて議会に確認する必要性はないように思います。

(事務局)

- ・総合計画審議会での議論の内容についても発言者名は掲載していません。

(渡辺委員)

- ・こうした審議会の委員となった以上、発言に責任を持つことは当然であるし、名前も公開されるものと理解しています。発言者名を掲載しないことについては、審議会として要望を出したものではありません。
- ・資料を提示するにあたり、名前を記載するか、しないか、ということについての確認もなされておらず、むしろ、名前を記載しないということが越権行為ではないかとも思います。

(事務局)

- ・個人名については、記載する際には確認が必要となると理解しています。
- ・特別委員会に提示する資料の決定は事務局で行っておりますので、名前を掲載しないということについては確認せず、事務局側で判断させて頂きました。

(影山座長)

- ・最初は特別委員会がどういう組織かについて理解できませんでした。総合計画審議会の委員名については特別委員会の参加者は理解していると思いますが、我々は特別委員会の委員会名簿は提供されていません。このあたりでの情報の齟齬もあるのではないのでしょうか。
- ・いずれにせよ、今後も、こうした議論内容を資料提供するというキャッチボールは続くのでしょうか。

(事務局)

- ・今回と同じような形で続いていきます。

(藤原委員)

- ・特別委員会というのは、行政側が審議会と同じようにお願いしたのではなく、議会独自で立ち上げているものです。
- ・総合計画審議会での議論が進んでいますので、議会側から資料として求められて資料を提示しているという立場ではないのでしょうか。そのため、そもそもキャッチボールという言葉自体に違和感を覚えます。
- ・その資料をどのように活用するのかについては、特別委員会が決定すべきものであり、総合計画審議会で議論する内容ではないと思います。

(渡辺委員)

- ・現行計画を策定する際には、議員も総合計画審議会に参加していました。今回は参加していないこともあり、特別委員会で議論をしていますが、第1回の特別委員会では、総合計画審議会の議論と最終的には融合していきたいという議論があったように思います。
- ・私自身も、この審議会の中で、特別委員会の議論の結果について融合するのか、議論のキャッチボールをするのかということについておたずねしましたが、明確な回答は得られませんでした。
- ・特別委員会では、ある理事者の発言により、前回の焼き直しでいいのではないかという方向性にもあるようです。

(影山座長)

- ・今後の扱いについて、審議会としては氏名を掲載して頂くよう要望する以上のことは出来ないのではないのでしょうか。

(松本委員)

- ・今回から、どうして氏名が削除されたのか、ということについて明快な説明があれば納得できるのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・第3回総合計画審議会（創造分科会）に資料を提示した際には、その資料は特別委員会には特に確認をしていませんでしたが、その後、こういった資料を審議会に提示したと特別委員会側に説明した結果、事務局を通して氏名を記載するのは不適切ではないかという質問が寄せられました。
- ・その結果を受けて、今回氏名を削除しています。

(影山座長)

- ・むしろ前回の資料の方が特別であったという整理になると思います。その他特にご意見がなければ本題に移りたいと思います。

## 2. 審議事項

(事務局)

- －参考資料、参考資料2、参考資料3説明
- －資料4、資料5説明

(影山座長)

- ・前回までと異なり、分科会ごとに担当する分野にとらわれずに、重点的に取り組むべき事や方向性全般について、自由に意見交換して頂きたいと思います。
- ・7つの都市力を出発点として市民のニーズや横須賀市の現状分析等を踏まえて、横須賀市が取り組むべき課題について整理したのち、例えば環境を守るプログラムとして提示されていますが、こうしたプログラムは課題を横断的に整理したものとなっているのでしょうか。それとも、横須賀市の課題が重点プログラムの中にちりばめられているのでしょうか。
- ・どうして横須賀市の7つの課題が5つのプログラムに集約されるのでしょうか。

(事務局)

- ・まず、これらが全て揃えば発展を遂げることが出来るものとして、普遍的な7つの都市力を考えました。その上で社会経済環境や市民の要望、横須賀の現状をみると、不足点が洗い出され、それらを課題として整理しました。
- ・その課題に対応するために何をすべきかを具体的に考えたときに、同じような施策分野の内容が含まれてきます。それらを寄せ集めると、5つの大きな分野に分類されることから、5つのプログラムに集約しました。

(遠藤委員)

- ・重点プログラムという割には、抽象的なスローガンに終わっているように思います。
- ・例えば、子どもを育てる環境について、課題については出産環境の充実という言葉で終わっていますが、現実的には11月から市民病院と共済病院が分娩を取りやめるということになっています。平成20年で市内の分娩件数2,774件であり、そのうち1,335件と全体の48%を両病院が担っています。そのため、この状況は非常事態といえます。
- ・課題について、もう少しメリハリをつけて、緊急課題とするのか、産科医師の確保などと現実を見た課題の書き方にしなければ、机上の空論になるのではないのでしょうか。

(吉村委員)

- ・重点プログラムに番号がふられています、それは優先順位と考えて良いのでしょうか。

(影山座長)

- ・優先順位が定められているのかということと、重点プログラムになると抽象度が高くなり喫緊の課題に対応できるのか、という2つの疑問が出されました。

(事務局)

- ・重点プログラムの2番目に「命を守るプログラム」が来ています。命を守ることは最も大事ですが、全体のストーリーとして、「生活する環境がしっかりと構築され、その環境の中で命が育み守られ、子どもたちを育てていくことで、にぎわいや活力を生み、地域の活力がうまれていく」という流れを考えています。
- ・市長のマニフェストの内容も受けて、「環境を守るプログラム」を1番目として、力を入れていくものとして順番に並んでいます。
- ・プログラムに具体性がないというご指摘ですが、基本計画のレベルでは、重点プログラムの方向性を示すということですので、抽象的にはなりますが、どういう分野を大事にするかということを確認にしたいと考えています。

(遠藤委員)

- ・今の表現では意味がないように思います。通り一遍の言葉だけではきれい事に終わりそうな気がするので、重点度が明確になるような表現が必要だと思います。

(事務局)

- ・同時並行で実施計画を策定しようとしており、その中では、「環境を守るプログラム」であれば自然環境と地球環境の問題、「命を守るプログラム」であれば安全・安心と高齢者・障害者施策といった頭出しをしており、それらに該当する重点事業やそれらをまとめた重点プロジェクトを掲載していくこととしています。
- ・いずれにしても、よりわかりやすくする工夫は考えていきたいと思いますが、基本計画のレベルでは大きな方向性を示し、実施計画では、予算と何から取り組むのかということを見極めながら、具体的な事業・プロジェクトを記載していくこととなります。

(松本委員)

- ・7つの都市力と課題の間に、どういう問題点があるかということが整理されずに課題として整理されてしまうので、わかりにくくなっているのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・資料5の1ページにお示ししている内容が、都市力と課題とをつなぐ内容であり、社会経済状況や市民の要望、横須賀市の現状などを踏まえた上で、横須賀市として足りないものが何かということを考えて、課題として提示しています。
- ・それぞれの内容に不足があるということであれば、その内容をご指摘頂ければ記載して対応していきたいと思えます。

(影山座長)

- ・具体的に実施する内容があればわかりやすいが、都市ビジョンに関わる観点を記載しているのに、何に取り組みたいのか、あるいは取り組まないといけないのかが見えにくくなっているように思います。
- ・非常に具体的な課題まで掘り下げながら、プログラムということでききなり抽象度が高くなってしまっています。これとは別に実施計画を策定すると、重点プログラムとして記載した内容が宙に浮いてしまうのではないかと思います。

(渡辺委員)

- ・今記載してある課題についても、子どもの問題、健康・医療の問題、自然、災害、仕事・商業、インフラ整備、情報・知名度などと、もっとシンプルにしてから、重点プログラムの内容につなげるとわかりやすくなるのではないのでしょうか。

(藤原委員)

- ・7つの都市力から重点プログラムにつなげていますが、元になっている7つの都市力の順序と、重点プログラムの番号が必ずしも一致していません。7つの都市力では3番目になっている自然環境が、重点プログラムでは「環境を守るプログラム」と最初になっています。並びとして都市力の順番がこれでよいのかという疑問もあります。
- ・また、「根底にある基本的な戦略」について、内容はもっともであると思えますが、これはどういう位置付けなのでしょう。具体的な施策を実施するにあたって念頭に置くべきものという説明でしたが、基本計画全体の中での位置付けはどのように整理されるのでしょうか。

(事務局)

- ・「根底にある基本的な戦略」は、資料では重点プログラムに矢印がつながっていますが、重点プログラムに関する事業だけではなく、基本計画の全施策に係る内容と理解しています。
- ・11年間の実施計画に連なる全ての事業の中で「人」という視点を大切にしようという意識を表しています。

(藤原委員)

- ・全てに関わるものであるとするならば、重点プログラムの所ではなく、計画の前段で記載した方がよいのではないのでしょうか。

(影山座長)

- ・重点プログラムという名称から想起する内容についても、事務局と我々とで認識に違いがあるように思います。ここではあくまでも基本的なコンセプトを明確にした上で、具体的なニーズや課題などを整理した後に、改めて基本計画を支える哲学のような内容を整理しています。
- ・重点プログラムというのは、ここを取り上げて取り組みますというイメージを想起し、言葉からは範囲を狭める内容だと思いますが、実際には非常に広い範囲の内容が記載されています。

(渡辺委員)

- ・この検討の流れだと、重点プログラムという表現を使わざるを得ないのだろうと思います。例えば、資料の中で人口減少や少子高齢化を「横須賀が直面する危機」という内容で記載しています。横須賀市には適正な人口があると思うのですが、これを危機と捉える記載をするから、重点プログラムや根底にある基本的な戦略という記述が必要となっているのではないのでしょうか。
- ・そもそも、横須賀が直面する危機をここに記載する必要性はあるのでしょうか。

(影山座長)

- ・横須賀市の中だけで住みよいまちづくりが出来るのかという疑問もあります。例えば、人を奪い合って自分の街に住めとか、企業に対してそちらの水は辛いぞ、こちらの水は甘いぞ、と呼びかけて行って未来はあるのでしょうか。
- ・行政としてそう言わざるを得ないということは理解できますが、そこに明るい未来はあるのでしょうか。
- ・また、大きなビジョンを記載しながら具体的な内容に入りたいという気持ちもわかりますが、いきなり重点プログラムと出てきたときに、「何と何をしてくれるのか」と読んではしまうように思います。この内容であれば、「基本戦略」という表現の方が誤解は少ないように思います。

(川名委員)

- ・渡辺委員が指摘された、人口減少や少子高齢化については、全国的な動向であり、それを踏まえて、最も適切と考えられる手段を講じていくしかないと思います。
- ・それに対して、「根底にある基本的な戦略」の戦略1の下から4行目で、「最大限に発揮するほか方法はありません」となっていますが、非常に限定的でマイナス思考の表現であるように思いますので、「発揮することが望ましい方法」などとしてはどうでしょうか。



(澤田副座長)

- ・「根底にある基本的な戦略」の記載内容は、マイナスからの視点での記載が多くなっています。例えば、戦略2の中の「高齢化は～都市の体力を奪っていきます」という表現も該当するし、上部枠囲みの中の2行目「潜在的な力のある人をどのように生かし」という表現も、潜在的な能力がない人を切り捨てるようなイメージがあります。人間には誰でも計り知れない可能性があるのも、それをどのように引き出すかが重要という記載の仕方がよいのではないのでしょうか。
- ・危機は適切な介入があれば成長に転ずるということが根底にあると思います。そうすると、これからもより大きな危機が来るかもしれないが、こういう体制をとれば危機を克服できるという視点で考えた方がよいと思います。
- ・また、7つの都市力から5つにまとめたところに無理があるように思います。市民がどういったニーズをもっているかははっきりしており、それに対して課題はこういうものであるということでおよそ的確に整理できていると思います。大きな環境の中で、一人ひとりの命や暮らしがあり、それを守っていくために、もっとも重要であるのが一人ひとりの力をどのように発揮できるのかであり、それを支える地域でのにぎわいが出てきて、最終的には、孤立化や孤独死などが進んでいく事に対して、地域力を活かしながら絆をどのように結んでいくか、そのために我々が何をすべきなのかが見えてくれば、何をしたらいいのかがわかるのではないかと思います。
- ・このスタイル自体は問題だとは思いませんが、表現として工夫があればと思います。

(事務局)

- ・「根底にある基本的な戦略」の表現については、なるべくネガティブにならないように注意したつもりでしたが、ご指摘を受けて改めて精査させて頂きたいと思います。高齢者なども一般的には医療費がかかるとか福祉にお金がかかると言われていますが、そういう風には考えないで、いつまでも元気で活躍して頂く、それにより福祉費用の増大を抑制するといったプラス思考で考えていく気持ちで記載しています。
- ・人材育成も、子どもの数はどうしても減っていくという現状があります。その中で一人ひとりが持てる能力を最大限発揮することがテーマであるという意味合いで記載していますが、それが十分伝わっていないと感じました。
- ・また、藤原委員からのご指摘もありましたが、ここに記載すべきかどうかというのは要検討であると感じました。

(大武委員)

- ・都市力から取り組むべき課題として結びつける時に、課題についてはもう少しわかりやすく補足する必要があるように思います。
- ・例えば、都市力6で「拠点集約型都市の構築」とありますが、具体的に拠点をつくるのか、そこに集約していくのかなど、具体的なイメージを整理することも必要だと思います。また、都市力2で「障害のない都市基盤づくり」については、他のものと比較して異質であり内容を明確にする必要があると思います。

(影山座長)

- ・「資料5 重点プログラムを導く条件の整理」の内容も、基本計画の冊子として含まれるのでしょうか。

(事務局)

- ・今までのご議論を踏まえると、含めた方がよいのではないかと考えています。

(影山座長)

- ・第1章、第2章で横須賀市としてどういう課題があるかを明らかにして、都市力を見極めながら進めていくということで重点プログラムを整理しています。読み手としては具体的な内容が記載されながら抽象度が高くなる展開は、わかりにくくなる恐れがあるように思います。

(松本委員)

- ・整理するのに、問題点が出されていないのではないかということについて先ほど指摘しました。
- ・資料5に書いてあるという事務局の意見でしたが、あらためて見ても社会経済環境や市民意見・ニードや横須賀の現状があり、そこからいきなり課題というのはわかりにくいと思います。
- ・現状は、あくまでも問題点ではなく現状しか書いていません。例えば少子高齢化が顕著というのは現状でしかなく、それがどのように問題なのかが整理されていません。現状を踏まえて、問題点を整理した上で、それを解決するための課題として整理しないとわかりにくいのではないのでしょうか。
- ・例えば、横須賀市の人口は今ままで行くと39万人になると謳っています。それを踏まえて現状をみるとこういう問題が発生する、そのためにこういった課題があるというストーリーであるべきではないのでしょうか。
- ・交通量が多いのは現状だが、それは必ずしも問題ではないと思います。

(藤原委員)

- ・ここでは、現状を問題点と認識して記載しているのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・少子高齢化は現状であり、それにより例えば税金を納める人が少なくなるなどの都市活力の低下や相互扶助の仕組みを作らなければいけないといった問題が生まれるということになります。

(松本委員)

- ・例えば、私学が少ないというのはどうしてここに記載されているのでしょうか。

(事務局)

- ・近隣市に比べて、私立の数が少ないため、学校選択の幅が小さくなるという点で、問題になると考えています。
- ・企業誘致をするときなどでも、有力な私立高校が横須賀市に少ないとか、子どもの教育のために横須賀市には定住しないという意見が聞かれています。

(松本委員)

- ・そうすると、私学が少ないというのは横須賀市として問題点として認識しているということなのでしょうか。

(事務局)

- ・その通りです。

(渡辺委員)

- ・高齢者に関して問題になっていることをそんなに列挙する必要はなく、交通手段を端的に明記すべきだと思います。そういうことが重点であるべきなのに、非常にたくさんの方が列挙されてしまっただけは、高齢者が読むと笑ってしまう状況だと思います。働くところが少ないとか施設が少ないといったこと以前の問題であると思います。
- ・谷戸についても谷戸のみどりと文化という言葉は、谷戸に住んでいる人からみたら笑い事だと思います。谷戸で重要な問題となっているのは独居老人や空き屋の問題です。そういうことをきちんと把握してから、こうしたものをつくって欲しいと思います。そうでないと誰も読まないのではないかと思います。

(事務局)

- ・渡辺委員の優先度から言えばそういうことだと思いますが、広く市民の意見を聞く立場であり、様々な意見として出されたものを課題として列挙していることはご理解頂きたいと思います。

(渡辺委員)

- ・それはどういう意見かはわかりませんが、私自身が障害者団体に入っている中で議論になっているのは、通院や介護に関することです。例えば、タクシーチケットは支給されて良かったのですが、ガソリン券の支給は止まってしまいました。こういった状況の中で、市内でどのように通院するかといったことが重要な話題となっています。
- ・そうした内容に触れないで、高齢者の雇用環境などの内容を記載してしまえば、障害者としては、市役所の中でこんな事が議論されているのか、と感じてしまいます。
- ・確かに、高齢者の働く場所は少ないですが、働く意欲を持っている高齢者がどの程度いるのでしょうか。その前に、自分の足を必要としているのです。

(影山座長)

- どこに視点を置いて現状を見るかによって、様々な指摘があり、ここではそれを列挙しているのですが、重点プログラムのようなもので整理しないといけないのだと思います。
- また、個々の課題が他の課題と矛盾しないのかということも問題となります。例えば、自然環境を保全したいといっていますが、一方では集客・定住施策の推進を謳っています。それらを解決するものとして、重点プログラム・戦略の必要性を押し出すことが必要だろうと思います。

(澤田副座長)

- 資料5の中で、横須賀の現状からすぐに課題につながっていますが、現状をどのように市として見ているのかが抜けています。この点が明確になると説得力が増すのではないのでしょうか。

(影山座長)

- 課題は、取り組むべき課題であるので政策課題でもあり、現状をここに記載しない方が良いのではないのでしょうか。

(遠藤委員)

- 時間も限られているので、課題の表現がこれでよいのかどうかということに絞って検討してはどうでしょうか。

(澤田副座長)

- 取り組むべき課題の3つ目、「障害のない都市基盤づくり」というのは、バリアフリーのことを想定しているのでしょうか。そうであれば「障壁」などの言葉の方が誤解は少ないのではないのでしょうか。

(遠藤委員)

- 心のバリアフリーの推進というのも、意味はわかりますが、もう少しわかりやすい表現の方がよいのではないのでしょうか。

(事務局)

- 心のバリアフリーについては、議会からも他の審議会分科会からも指摘されています。何か良い表現があれば是非変えていきたいと考えていますので、ご意見を頂戴したいと思います。
- 一方で神奈川県バス協会が、心のバリアフリーという広告を出しているのを見て、市民権を得始めたのかとも感じています。言葉として計画に盛り込むことで、市民に知って頂くきっかけにすることも考えられると思っています。

(藤原委員)

- ・生物多様性への取組み推進も、これだけではよくわかりません。現状などをたどると内容はわかりますが、課題だけみると、内容はわかりません。

(事務局)

- ・本文では、7つの都市力から突然整理されるので、注釈なども必要だろうと思います。

(影山座長)

- ・資料5全体を通してそういう問題を抱えていると思います。説明なくいきなり現状や課題が整理されていますが、かといってそれを説明していくときりがありません。
- ・そのため、その後に出てくる基本計画への前置きとして、先行きが不透明な社会であり、そこを歩んでいく上での課題やコンセプトとして内容を示せばよいのではないのでしょうか。

(森川委員)

- ・重点プログラムに取り組むのは行政だけではなく、市民が意識すべきものでもあると思います。
- ・しかし若い世代は、横須賀に愛着を持つということが少なく、これから横須賀を背負うような意識が足りていないように感じています。
- ・重点プログラムをみると、これが横須賀の重点プログラムでよいのか、という疑問があります。
- ・横須賀市が取り組むべき課題として、「5 地域力を育むプログラム」の説明文の中で「地域が個性や魅力を生かしながら」とあったり、「4 にぎわいを生むプログラム」でも、「都市の魅力」や「新たなブランドづくり」などの表現がありますが、これらの「地域」は全て横須賀市の事です。こうしたところで意識的に「横須賀」という言葉を使うことで、横須賀を盛り上げていこうという気持ちが高まるのではないかと思います。

(影山座長)

- ・様々な意見が出されましたが、事務局は第7回に向けた整理をお願いします。

### 3. その他

(事務局)

- ・庁内のプロジェクトチームや関係部局と協議を行い、6月上旬に基本計画3次素案を策定するのでそちらに反映していきたいと思います。
- ・その後6月の下旬に市民会議を開催して、3次素案についてご意見を頂き、それを反映したものを7月の総合計画審議会でお示しする予定となっています。

(渡辺委員)

- ・次回、皆さんに聞いて頂きたいCDがあります。「この街で」という曲であるが、このまちで生まれ育ち、子育てをした家庭の主婦がつくられた歌です。この歌を聴いた上で、この会議に臨んで頂ければと思います。
- ・よろしければ、荒井満が謳っているものと仲本工事と三代純歌が謳っているものなどがありますので、1曲あたり5分となりますが、お時間を頂戴したいと思います。
- ・どこかで借りてきたような言葉ではなく、市の職員の方に自分の言葉で計画を記載して頂きたいと思って、こうした提案をしています。

(影山座長)

- ・時間が全体としてとれるかについて事務局と相談したいと思います。

(事務局)

- ・次回及び次々回については、5月20日(木)及び21日(金)で両日とも15:00~17:00となります。
- ・7月については、中旬を予定しているが確定はしていません。また調整させていただきます。

(以上)